

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

海外発祥の祭ハロウィンだが、装飾が華やかで日本中にすっかり定着した感がある。買い物物の精算時に、ラッピングされた御菓

子をプレゼントされるとなぜか心温まる気分になる。だが途中レギュラーガソリンを給油すると170円以上の店頭価格、灯油も100円以上の表示でガソリン高騰が車社会に頼る地方での生活にも大打撃だ。

経済学の基本では、理由のいかんを問わず、市場に対して経済成長のスピードを超えて大量のマネーを供給すれば、最終的にインフレ圧力に転じるときにきている。世界経済全体を見渡せば、新興国の生活水準の向上で物価水準が上がる材料は十分で、今後とも価格高騰は避けられないだろう。

また冬のボーナスの減額情報も聞かえ、今回の価格高騰は、あらゆる分野でコストが上昇しており特に観光関連事業者には厳しい状況にさらされると思われ。

線を描き、歴史や文化をみつめて「観光を中心にしたまちづくり」を考える取り組みが始まる。少子高齢化やコロナウイルス感染拡大で観光業など社会が変化していくなか、地域活性化の視点を軸に、和歌山地方気象台が観測するカエデの標本

## 温暖化は地域経済にも影響する事を意識すべきだ

では1952年から60年の間に、夏の長さが17日伸びる一方、秋、冬、春はそれぞれ短くなったと読売新聞コラム余禄さんが紹介した。

木が紅葉する日は半世紀で半月も遅くなり、富有柿発祥の地である岐阜県と岐阜大学の共同研究結果では、温暖化の影響で今後9月の平均気温の上昇が予想され、すでに変化の兆しが見え始め、2040年代には富有柿は赤身成分がうまく合成されず、熟しても緑色が残る着色不良が起きやすくなると発表した。降雪の観光資源が観光産業基盤を支える大北地域でも温暖化は重大な関心事だ。英グラスゴーでの国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議の首脳会議が評価される会議となるよう祈るばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



修学旅行受け入れ企画の地域一帯の取り組み成果で多くの大型バスが